

シンポジウム

「津波警報と周知啓発活動 ～地域社会の強靱化に向けて～」

【概要】

2004年12月に発生したインド洋津波から10年、2011年3月の東日本大震災からはほぼ4年が経過しました。この10年間における地震津波災害の様態、社会構造の変化、地震観測・津波予測技術の進展等の背景を踏まえ、世界各国での地震情報/津波警報提供と住民への啓発活動による地震津波災害リスクの軽減に向け、国際的連携の強化や国連に求められる役割等について議論します。

**入場
無料**

入場無料、誰でも参加可能です。
(事前登録不要)

主催

気象庁

日時

平成27年**3月18日**(水)
10:10～16:00 開場 10:00

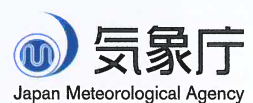
会場

TKPガーデンシティ仙台 21階 ホールA
(仙台市青葉区中央1-3-1)



同時通訳サービス
あり

会場へのアクセス



気象庁は第3回国連防災世界会議を支援しています。

第3回国連防災世界会議 パブリック・フォーラム

シンポジウム

「津波警報と周知啓発活動 ～地域社会の強靱化に向けて～」

プログラム

10:00 受付・開場

10:10 オープニングセッション
伊藤敬幹 (仙台市副市長)
トルキルド・アーラップ
(ユネスコ/政府間海洋学委員会津波ユニット長)
西出則武 (気象庁長官)

10:45 休憩

11:00 セッション1: テーマ「津波警報」

2011年3月11日に発生した東日本大震災における津波被害、我が国の自治体の対応等を共有するとともに、世界の海域での津波警報体制の現状と改善に向けた取り組みの紹介、地域間の連携の強化等について講演とディスカッションを行います。

12:45 セッション1終了

14:15 セッション2: テーマ「周知啓発活動」

津波警報による適切な避難や自発的な避難には、住民や地域社会に対する周知・啓発が不可欠です。現在、各機関で進められている活動の事例を紹介し、世界規模で津波や津波警報に対する理解促進のために考える方策について、講演とディスカッションを行います。

16:00 終了